

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	医療薬学特別研究		
開講キャンパス	伏虎	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～4年次
必修・選択の別	選択	単位	14単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(病態生理学) 粘膜免疫学、感染症、ワクチン (薬品作用学) 薬理学、生命科学 (薬物治療学) 薬物治療学 (薬剤学) 製剤設計、DDS		
担当教員 (下線：科目責任者)	医		
	薬		
授業の概要	病態生理学、薬品作用学、薬物治療学、薬剤学の各分野において博士論文作成の指導を行う。研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につける。		
到達目標	(病態生理学) 実験を行い、データを収集、解析し、考察を行うことができる。 (薬品作用学) 情報検索と研究課題の設定、実験計画の立案と実施、データ処理と結果の解釈、さらには研究成果の取り纏めと発表、論文の執筆まで、一連の研究活動ができる。 (薬物治療学) 細胞実験、動物実験、分子生物学的研究手法について理解する。 (薬剤学) PDCAサイクル（実験計画の立案と実施、データ処理と結果の検証・改善）の実施、得られた研究成果の発表、原著論文受理までの一連の研究活動ができる能力を身につける。		
授業計画	(病態生理学) 粘膜免疫、感染症免疫に関係する研究を行う。（佐藤慎太郎） (薬品作用学) 脳やミトコンドリアをひとつの切り口とした基礎研究・応用研究を行う。研究内容に応じて実験手技、情報やデータの収集法、データ処理法、論文の執筆を指導する。（新谷紀人／岩田圭子） (薬物治療学) 研究内容に応じて教員が実験手技、データ収集法、データ処理法等について指導する。（岩倉 浩） (薬剤学) 固形製剤、ナノ粒子製剤などを切り口として、基礎研究を行う。テーマに応じて教員が実験手技、データ収集法、データ処理法等について指導する。（福田達也）		

授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%（研究課題の設定内容、研究の遂行状況）によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	特に指定しない。